資料5

2.情報提供
（１）気象台からの情報提供

新しい防災気象情報（R8出水期から運用開始予定）

- 防災気象情報（大雨浸水、河川氾濫、土砂災害、高潮）を５段階の警戒レベルにあわせて発表。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、**レベル４相当の情報として危険警報を新設**。
- **情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表**。（例：レベル４大雨危険警報 等）
- 情報と対応する防災行動との関係が明確に。（レベルの数字で、とるべき行動が分かる！）

新しい防災気象情報の情報体系とその名称

	大雨浸水 低地の浸水や 小さな河川の氾濫	河川氾濫 １級河川などの 大きな河川の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや 土石流	高潮 海水面の上昇や 高波による浸水	住民が 取るべき行動
5	レベル５ 大雨特別警報	レベル５ 氾濫特別警報	レベル５ 土砂災害特別警報	レベル５ 高潮特別警報	命の危険　直ちに安全確保！
＜警戒レベル４までに危険な場所から かならず避難！＞					
4	レベル４ 大雨危険警報	レベル４ 氾濫危険警報	レベル４ 土砂災害危険警報	レベル４ 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
3	レベル３ 大雨警報	レベル３ 氾濫警報	レベル３ 土砂災害警報	レベル３ 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
2	レベル２ 大雨注意報	レベル２ 氾濫注意報	レベル２ 土砂災害注意報	レベル２ 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
1	早期注意情報				災害への心構えを高める

※情報名称の最終決定は、法制度などとの関係も踏まえ、気象庁・国土交通省が行う

（２）太田川河川事務所からの情報提供

①太田川水系河川整備基本方針の変更

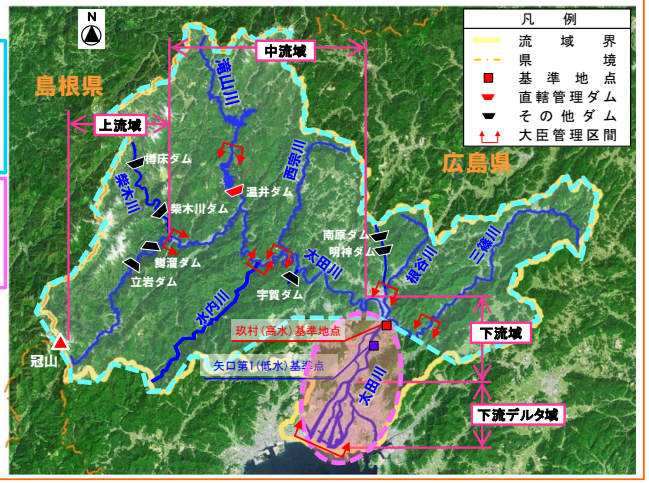
- 長期的な河川整備の目標となる洪水の規模（基本高水）を基準地点玖村において、12,000m3/sから14,300m3/sに変更し、この基本高水の流量を河道と洪水調節施設等に配分。
- 気候変動の影響による洪水外力増大に対し、流域治水の視点も踏まえ、流域全体を俯瞰した上で流域内の洪水調節施設や貯留・遊水機能の確保等幅広く検討を実施するとともに、河道配分流量の増大の可能性について、河川環境や河川利用、地域社会への影響等を総合的に勘案して検討した結果、洪水調節流量を6,300m3/s、河道配分流量を8,000m3/sとする。
- 気候変動に対応した河川整備の加速化を図るとともに、既存施設の有効活用や災害リスクの高い区域の土地利用の抑制等、あらゆる関係者による流域治水の取組の更なる推進を図る。

位置図

河道と貯留・遊水機能確保による流量配分の考え方

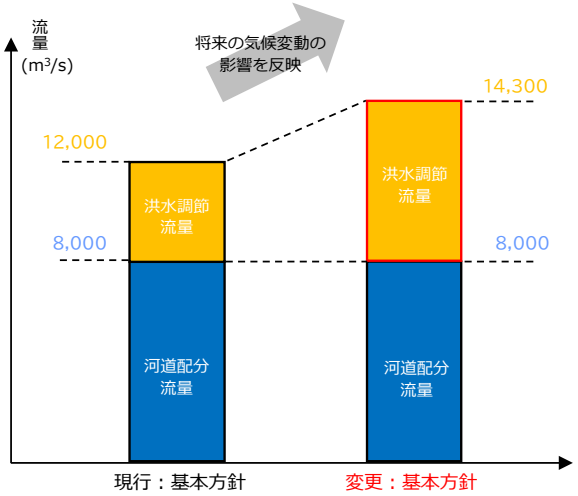
【中流域・上流域】
河川の両岸に資産が集積し、ゼロメートル地帯が広がる玖村地点より下流域での流量増大が困難であるため、既存ダムの洪水調節機能の最大限の活用や支川も含めた流域全体での貯留・遊水機能の確保の可能性を検討

【基準地点玖村より下流域】
地域社会への影響や河川環境・河川利用への影響等を踏まえ、古川合流点から下流及び放水路の河道配分流量の増大の可能性を検討



河道と洪水調節施設等の配分流量

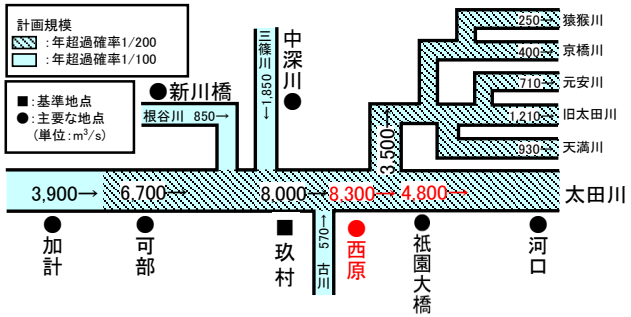
<基準地点：玖村（1/200）>



※基準地点玖村の計画規模1/200は維持

計画高水流量図

【赤字変更】



基準地点	基本高水のピーク流量（m³/s）	洪水調節施設等による調節流量（m³/s）	河道への配分流量（m³/s）
玖村	14,300	6,300	8,000

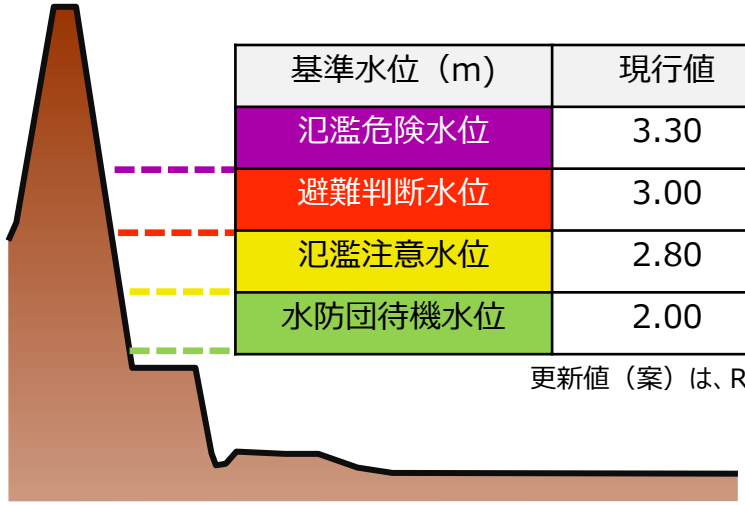
増大する外力への対応

- ○ 沿川の土地利用を考慮しつつ、支川も含めて流域全体で貯留・遊水機能を確保
- ○ 既存ダムの洪水調節機能の最大限の活用も含めて貯留・遊水機能を確保
- ○ 資産が集積するゼロメートル地帯であり、放水路及び市内派川からの氾濫・内水による浸水被害の最小化の取組を推進
- ○ 古川合流点から下流及び放水路の流量を増大

②三篠川（中深川水位観測所）基準水位の見直し

・ 太田川水系三篠川の中深川水位観測所において、平成30年7月豪雨による浸水被害を踏まえた段階的な整備が進捗したことから、「洪水予報」及び「水防警報」の発表基準を令和7年出水期より変更し、運用する予定。

基準水位（新旧比較）



基準水位（m）	現行値	更新値（案）
氾濫危険水位	3.30	3.80
避難判断水位	3.00	3.30
氾濫注意水位	2.80	3.00
水防団待機水位	2.00	2.30

更新値（案）は、R7.6.11から運用予定

基準水位の種類と定義

氾濫危険水位：
洪水により相当の家屋浸水等の被害を生ずる氾濫の起こる恐れがある水位

避難判断水位：
氾濫発生の危険性についての注意喚起を開始する水位

氾濫注意水位：
氾濫に関する情報への注意を喚起するための水位

水防団待機水位：
水防団が水防活動の準備を始める目安となる水位

改修状況

平成30年8月撮影　令和6年8月撮影

丁(ようろ)地区の工事完了の様子

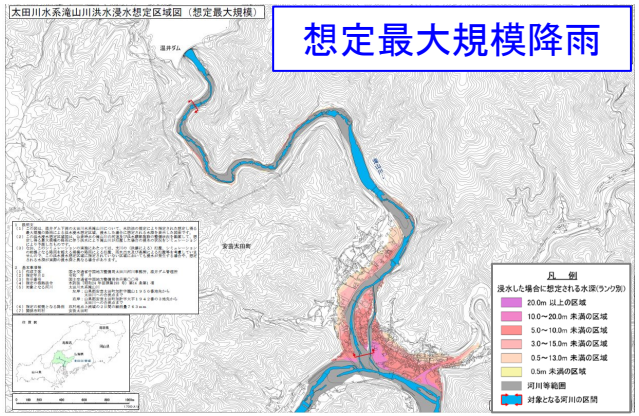
平成30年8月撮影　令和6年3月撮影

友光地区の工事完了の様子

③滝山川の浸水想定区域の指定

- 太田川水系滝山川の浸水想定区域図について、令和3年の水防法改正に伴い、以下の情報を拡充し、令和7年度出水前までに指定・公表を予定。

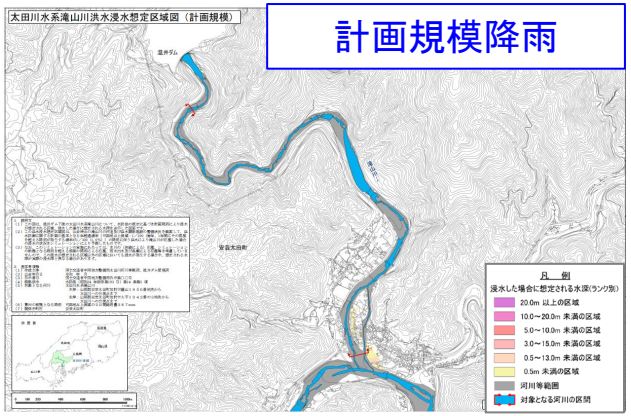
ダム下流区間のリスク情報（R2.3公表）



想定最大規模降雨

想定最大規模降雨（763mm/48hr）※玖村上流

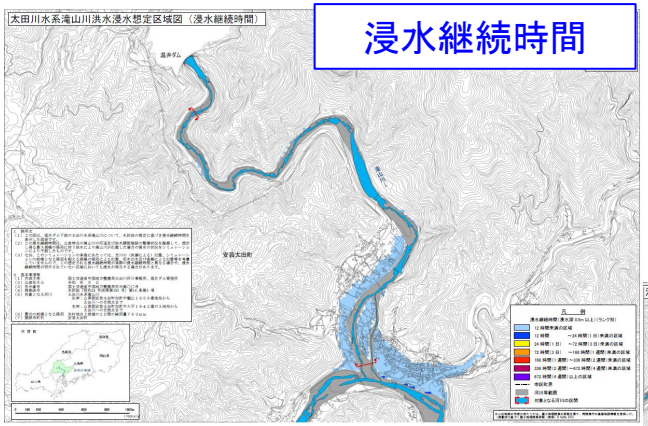
＋



計画規模降雨

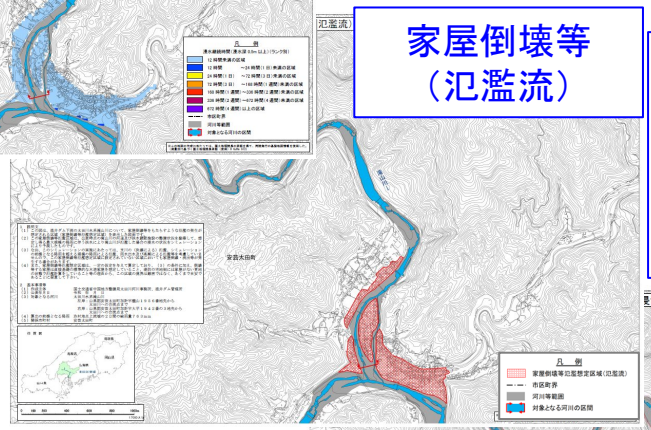
計画規模降雨（387mm/2日）※可部上流

リスク情報の拡充



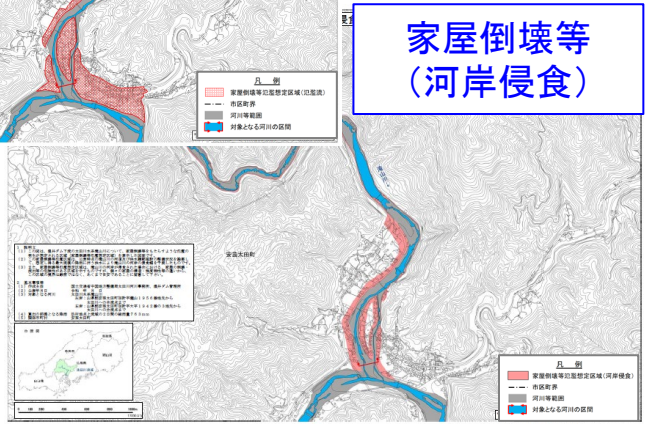
浸水継続時間

【浸水継続時間】
洪水時に避難が困難となる浸水深（0.50m）を上回る時間の目安を示したもの。



家屋倒壊等（氾濫流）

【家屋倒壊等（氾濫流）】
堤防が決壊した場合に、氾濫流によって一般的な建築物（木造2階建て家屋）が倒壊・流出する等の危険性が高い区域を示したもの。



家屋倒壊等（河岸侵食）

【家屋倒壊等（河岸侵食）】
河岸が侵食された場合に、侵食された地形とともに建築物が倒壊・流出する等の危険性が高い区域を示したもの。